



ふくろう

博・学連携だより

第221号

令和4年度テーマ展

屏風

と襖

5/21(土)―6/26(日)

会期中無休

関連イベント

ギャラリートーク

日時：6月11日(土)

13:30～14:00



八重樫豊澤 [琴棋書画図屏風]

花巻市博物館テーマ展「^{びょうぶ}屏風^{ふすま}と襖」が始まっています。博物館が所蔵している屏風や襖から、花鳥画や人物画，山水画を三つの章に分けて展示しています。

今回の展示では、花巻三画人の橋本^{せつしょう}雪蕉^{しゅうとく}や小野寺周^{ほうたく}徳^{ほたく}、八重樫豊澤の作品の他、八重樫豊澤の養子の八重樫豊川や弟子の菅原黒川の作品，盛岡出身で昭和の初めごろに花巻で個展を開催した藤島^{ふじませいそん}静邨^{せいそん}の作品，橋本雪蕉の弟子で現在の花巻市東和町出身の菊池^{もくどう}黙堂^{もくどう}の「山水画襖絵」も展示しています。

今回の展示作品の中には、春木^{はるきなんご}南湖^{なんご}作「唐人^{とうじん}物^{ぶつ}図^ず屏風」のように、絵をもとにして子どもたちにお話を作らせてみたくなる作品や、山下^{せいがん}青厓^{あきくさず}作「秋草^{あきくさず}図^ず屏風」のように、絵の中に描かれている様子を、クイズにして子どもたちに答えさせたくなるような作品もあります。

市内小中学校の児童・生徒は，土日の対象ですが，まなびキャンパスカードの提示で入場が無料になります。また，小学生の付添の保護者は，1名に限り入場無料になりますので，児童・生徒へも見学を勧めてください。

まなびキャンパスカード



0100949-9



オンライン授業の時にあると便利な器材

花巻市博物館では、昨年度後半からオンライン授業を始めています。昨年度は、小学校数校で「東北地方の災害」や「昔の道具とくらし」のオンライン授業を行いました。

授業を行ってみて気づいたことは、当たり前のことですが、子どもたちに見せるモニター等の画面ができるだけ大きいと、見やすく理解もし易いということです。特に、パワーポイントを使って解説する場合、画面共有を使用するので、画像が小さくなりがちです。次の時間に隣の学級でもオンライン授業という場合は、移動させやすいテレビモニターが便利だと思いますが、できればプロジェクターとスクリーンが一つになっている電子黒板等を使用することで、より大きな画面で子どもたちに見せることができます。

オンライン授業では、タブレットパソコンのマイクを通して子どもたちの声が博物館に届いて来ますが、実は、授業始めの子どもたちの元気なあいさつが、元気が良過ぎると博物館に届きません。これは、子どもたちの声が、マイクの入力レベルを超えてしまい、一旦切れてしまうためです。また、授業中のタブレットパソコンから離れた子どもの発言は、マイクが拾うことができず、これも聞こえません。こんな時に使えるのが、オートゲインコントロール機能の有るマイクです。声の大きさに合わせて、マイクの入力レベルを自動調整してくれるので、子どもたちの元気な「おはようございます！」の声もとぎれず、少し小さな子どもの声も大きく聞こえるように拾ってくれます。USB接続で簡単に使えますので、学校でも準備しておくに役に立つと思います。このようなマイクが付いている器材としては、WEB会議用カメラ（オートゲインコントロール機能付き）や、WEB会議用スピーカ（スピーカーフォン）があります。使い方や学級の子どもの人数を考えて選ぶとよいと思います。



博物館で使っているスピーカーフォン

さらにもう一つ、あると便利だと思う器材が、広い角度で映せるWEB会議用カメラです。博物館の学芸員が教室に居る子どもたちにクイズを出すと、先生方がどれくらいの子どもの手を挙げているかタブレットパソコンの向きを変えて見せてくれたりします。

オンライン授業で使ったWEB会議用カメラ



この時に、広い角度で映してくれるWEB会議用カメラがあるとカメラをあまり動かすことがなく（または、全く動かす必要がなく）、便利だと思います。中には三脚を取り付けることができるWEB会議用カメラもあります。これだと、授業を始める前のカメラの向きの調整も、簡単にできると思います。

博物館では、スピーカーフォンとWEB会議用カメラを使っています。子どもたちに実物資料の細かいところや、実物資料の中などを見せる際に、カメラを切り替えてWEB会議用カメラを使用しています。そして、いろいろな実物資料を見せる場合は、学芸員も動くので、PCに付いているマイクではなく、スピーカーフォンを使用します。また、スピーカーフォンを使うことで、パソコンに付いているマイクよりクリアに声を届けることができます。